

付録 4:協働ギャザリング 2018(年度末報告会)

－協働取組事業を通じた知見

(動機・障壁・役割分担・意義・失敗事例・ノウハウ)－

【付録 4: 協働取組事業を通じた知見(動機・障壁・役割分担・意義・失敗事例・ノウハウ)】
協働ギャザリング 2018 年度末報告会における指摘事項

参加者による答え	
なぜ協働に取り組んだのか？	<p>[内発性・主体者意識の向上]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分事にならないと何も変わらないため。 ● 行政サービスに頼るのではなく自分ごととして考えてもらえるから。 ● 外様だけでは嫌われる。 <p>[取組の仕組み化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「仕組み」にすることで、地域の人に「自分事」と捉えてもらう必要性を感じた。 ● 地域課題解決の主体、体制、柱ができる。 <p>[自己実現・目標達成の手段]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分達がやりたいことをやるため。 ● 教育面での「宇部方式」がやりたかった。 ● 地域活性の手段のひとつと考えた。 <p>[戦略としての協働]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 外部情報(地域ニーズ)の内部へのインプットを進める。 ● 社会をよくするため。 ● 持続可能な世界をつくるため。実現には考え方を異にする人と対話し理解し合わないがため。 ● 大きな動きをするためには協働は不可欠。仲間同士では大した展開はできない。 ● 「同じ志を持った仲間と取り組みたいから」という期待があった。→地域に受け入れられない不安もあった。 ● 個別の活動では解決できないので、協働なら夢が実現できると思った。 ● いかにステークホルダーの目標をひとつにするか?…の中で協働を選んだ。 ● 実際に多数を巻き込む必要がある。 ● 関連する人達とつながるメリットが大きい。 ● それぞれの特性を活かすことが出来る。 ● 地域の様々な、相対する意見の吸収が大切だから。 ● 例えば、山口県は保守色が強いが、子ども達の生きる力を育むためには協働が必要。 <p>[現状に対する不満、現状の限界の認識]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 行き詰まり感からの脱却を目指して。 ● ESD の推進。個別の取組では限界がある。 ● 自己の取組だけでは限界を感じたから。 ● 行政の限界を超えるため。予算や計画などが限界。 ● 限界をみたこと。 ● 現状打破の思い。 ● 自分達だけでは時代の流れについていけないと思った。 ● その道の専門家だけでは活動が広がりにくい。広がりを期待したが、アイデアが広がる反面、收拾がつかなくなる心配もあった。→お山の大将の集全体化 <p>[政策協働への期待]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市民がやりたいことと行政の計画にはズレがある。行政がいかに認識するかが重要だと思ったため。 ● 官・民それぞれだけではできないことが多いから。 ● 行政だけでは分からない地域の問題を解決するために必要だと思った。 <p>[異質性の協働への魅力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な人の手を借りないと解決できない地域の課題だから。 ● それぞれの専門性は宝物だと思った。 ● 今までの「協働」への不満(仲良しクラブ)。 ● 自分達だけではできないから。→やるしかない、上手いくのだろうか?という不安も。 ● 自分の分からないことを教えてくれるアドバイスが欲しかったから。 ● 自分達の力では進まない。皆に助けをもらうため。 ● 一人より二人、二人より三人の知恵。 ● 持っているスキルを活かすことで補い合えるから。 ● 活動を推進する中でステークホルダーが多かった。 ● 課題解決には様々なステークホルダーが知恵を出し合う必要があるから。 ● 自分だけの力で達成できないから。 ● 私たちが一人では生きてゆけないのと同じ。 ● 社会の構成が多様だから。 ● 新派を生み出したかった。知識や考え方を入れたかった。 ● たくさんのアイデアが得られると思ったから。 <p>[中間支援機能の最大化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「橋わたしが出来る人」と思われたから。 <p>[理論化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 未知の理論化(最先端)。

	<p>[共愉性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 興味深かったから。 ● 楽しみをもらえる → 仲間を増やす経済力を上げるため。 <p>[外部評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 外からの評価が必要だった。 <p>[公共性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国の旗印。 ● 「山の自然環境」は山側だけでは解決できない。多くの方に関心を持ってもらうことの必要性を感じていた。 ● コストの分担 財政的な援助を行政・企業等に期待した。 ● 行政や社協を巻き込みたかった。 <p>[自立発展性の向上]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次世代につないでいく活動ができるから。 <p>[社会的インパクトの向上・相乗効果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 広報面や広がりなど、効果の最大化を測るため。 ● 相乗効果、関連性が乏しくとも、取りあえず認識・認知してもらえることに期待したため。 ● 組み合わせる面白さが変化をうみだす。 ● いろいろな考え方や立場の違う人が集まると、かけ算が生まれる。 <p>[役割分担による多様な主体を活かし、活かされる関係性づくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 少数社会化のなかの総主役化、役割の付与があったため。 <p>[時機・タイミング]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「ここ」と「ここ」がつながると、きっといいことができるだろう！という協働のタイミングがあった。 ● すでに進めている事業の追い風になる。 ● 地域を考えるきっかけに。 <p>[協働がもたらす新たな可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 可能性が広がると思ったから。 ● 自分はプラスチックのことしか分からないので、新しい知識や考え方を入れたかった。 ● 協働取組をすることで選択肢が広がる。 ● 取り組みに厚みができる。 ● 地域での厚み、協力、継続、理解が欲しかった <p>[請負事業としての資金活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お金が使えらる。
協働取組の一番の壁は？	<p>[協働への不信・ネガティブなイメージ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 協働できないという後ろ向きの気持ちの人がいる。 ● 協働取組の担当者がネガティブだった。 <p>[地域社会における個人の多属性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個人の多属性。 <p>[異なる思忒・異なるモチベーション]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 異なる思忒。 ● 相互理解、持続させるモチベーションが難しい。 <p>[軋轢の歴史・非協力の歴史]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 軋轢の歴史。 <p>[各主体の有する想いの強さの相違]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 参加者の“想い”の強さや温度差があった。 ● 一応ステークホルダーになっているけれども、協働に対する温度差がある。時間をかけて巻き込みの努力が必要。 ● 主となる団体の思いが強すぎて関わるメリット、役割がわからない点。 <p>[各主体が有する面子・プライド]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 面子。 ● 地域文化プライドを保つこと。 <p>[分野・領域・世代における価値観・手続き・方針・アプローチ・認識の相違、組織文化の相違]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● セクター毎のイデオロギー、文化。 ● 経済面での価値観の違い。 ● 哲学や多様性、方向性、認識の違いなど。 ● 市民活動の人、ビジネスの人、行政の人、で文化が違う点。 ● 分野の違うステークホルダーには、言葉や文化の壁がある。→ 違う文化、考え方があることを知るのも大事。 ● 行政の協働と市民の協働の認識の違い。 ● 皆が納得するゴール目標の設定、共有。→ それぞれが譲れないモノ・コトがあるので、配慮が必要である。 ● 付度の精神がある場合がある。 ● 仕事でやってる人と好きでやってる人、必要だからやってる人との間に壁がある。 ● 活動に対する価値観の違い。 ● 対話における思考様式の違い。 ● 年代の違いによる未来に対する考えの違い。 ● 地域との意識の違い。 ● 地域への浸透、理解を得ること。

- 地域の住民との関係。
 - フラットな関係づくり。
 - パワーの差を配慮。
 - 知らない人とうまくやっていけるかどうか不安。
 - 地域住民の方々との精神的な距離感。
- 【各主体の主体性向上の難しさ・役割分担の難しさ】**
- 参加者の主体性や役割分担。
- 【行政の縦割り】**
- 行政の縦割り。
- 【共通言語の欠如】**
- 共通言語がない。
 - 共通言語(ひとつの言葉で同じものがイメージできるか)。
- 【寛容さ・許容力の幅の相違】**
- 許容力。
- 【コミュニケーションの難しさ】**
- 次世代への継承。
 - 後継者の育成。
 - 世代間の認識の差。
 - お互いにきちんと聞くことができるかどうか。
- 【目標共有の難しさ・共通理解の難しさ】**
- 協働⇄リーダーシップについて、共通理解の難しさがあった。
 - 関係者の理解力に幅がある。
 - コアメンバー内の目標共有が必要。
 - 課題共有と認め合い。
 - 目的設定と共有。
- 【合意形成の難しさ】**
- 関係者全員との合意形成が難しい。
 - 合意形成が困難。
- 【公共性の高い思考の欠如】**
- 関係者が相手の立場を理解しないで自分の主張を通し過ぎている。
 - 聞く耳をもたない人、センスのない人はだめ。→人間そう簡単には変わらない。
- 【継続的な資金】**
- 継続性。とくに資金面。
 - 継続的な資金。
- 【実施にむけた明確な根拠・言語化・可視化】**
- 組織にとっては、「上」を説得できる根拠がほしい。
 - 現場の実感として、組織を動かす根拠の提示が必要だと思った。→“失敗”に対する恐れがある。
 - 参画するメリットが不明確なことが多い。
 - 民間団体は賢くならないといけない。取組を言語化し、整理し、提案文書にまとめられるくらいのレベルが必要。
- 【特権意識(世襲)】**
- 特権意識(世襲)。
- 【行政の組織文化】**
- 役場に協議会を理解してもらい、いかに参加してもらうか。
 - 行政の若手担当者にとって、夜の会議や活動に参加しにくい。
 - 行政内部の理解が難しい。特に、協働の意義や継続性の説明。
 - 行政がせっかちに成果を求め過ぎる(1~2年でできるものではない)。
 - 行政は目に見える成果を求めるが、協働という目に見えないものの成果を求めるのが難しい。
 - 行政職員は数年で人事異動があり、せっかくできた信頼関係が一から逆戻りになる。
 - 市民協働局(担当4人、NPOセンター3人、アルバイト2人)各課に一人協働担当がいること(岡山市)。
 - 自治体への参加の声掛けにハードルがある。
- 【協働へ参画する覚悟・意義】**
- 支援側の意識として、その人の人生に関わるという覚悟が必要だった。
 - 取り組みの意味を知ってもらうこと。
- 【人の建前】**
- 人の建前が本音の協働を妨げる。
- 【時間】**
- 時間が足りなかった。
- 【物理的距離】**
- ステークホルダーとの物理的な距離。
- 【技術の変化】**
- 技術のブレークスルー。
- 【外部環境の変化】**
- 外部環境の変化。

	<p>[そのほか]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアとのせめぎ合い。 ● お金を使わなければならないとき。
<p>協働取組にはどんな役割の人が必要か？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● セクター、世代間をつなぐ人。 ● コーディネーターと実働部隊。 ● 地域のネットワークを広く持っている人(この人がそう言うなら協力しましょうと言わせる力)。 ● 学校と行政、両方の言語が話せる人。 ● 各セクターに『2カ国語』が話せる人がいたら良い。 ● アイデアマンが欲しい。 ● バランス感覚のすぐれた企画立案者がいると助かる。 ● 自らステークホルダーをまとめる人や熱意を持って突き進む人。 ● ポジティブ思考は大切。 ● 「妄想」を形にできる人、計画を立てるのが上手な人。 ● お金の計算ができる人が重要。 ● 協働になる前の期間がとれる人。 ● 聞き取りする人。聞いてまとめる人。 ● 事務をする人(書類、チラシ、連絡)。 ● 目標を示す人や取組に熱い思いを持っている人。 ● 地域のことをよく知っている人(※年配の方)。 ● 否定しない人・どんな意見も受け止められる人。 ● プロジェクトをまとめる人 ● 一歩ひいて全体を見ることができる人。 ● (自分たちにつながりがないことを前提に)地域の人と様々な形でつながっているキーパーソン。 ● 全体を見て人や組織をつなげられる人。 ● 行政リーダー、自治会ボス、政治家。 ● 大学、小・中・高校、保育園・幼稚園。 ● 若者世代。→若者がやりたいことをするために、どう働きかけるか。 ● 市民グループ、大企業、柳沢林業のような核となってくれる企業。 ● 教育委員会(県・市)社協、環境衛生連合会。 ● 人の特性を見抜く役割。 ● 気軽に人に頼める人→人の輪を広げるため。 ● ときには、できないふりをして人にやってもらうことも重要。 ● 楽しい姿を見せられる人がいると周りに人が集まる。 ● 遊び心や心に余裕のある人、楽しめる人。ムードメーカー。 ● 潤滑油的なつなぐ人、聞く耳をもつ人。 ● 全体を見渡せる人(アドバイザーイーボード的な)。 ● 「決める」役割の人。 ● リーダーシップのある人。 ● 仕事として取り組める行政マン。 ● 山の大切さを知っている長老達。 ● 枠組みに捉われない自由な発想ができる人(アーティストとか)。 ● 事務局能力に長けている人、まとめる人。 ● 個々の特殊能力の発揮、それをひきだしまとめる役割、アイデアを形にする役割。 ● Iターン者、発信することに長けている人。 ● 少し強引な人。 ● めげない人。 ● みんなを元気付ける役割。 ● コーディネーター(全体を支える・事務局的位置)。 ● 熱いリーダー、諦めない人と熱くない人(交通整理係)。 ● 地元の人と外部の人、ヨソモノ。 ● 物知りな人。 ● 人の不満や不安を聞いてガス抜きしてくれる人。 ● 専門家、長老、役に立つ情報源。 ● 人の心への丁寧な配慮ができる人。 ● 取り組みの外枠までイメージしている人。 ● 宇部志立市民大学環境学部のOB(まちづくりサポーター)。 ● 人と人をつなぐ力を持った人。 ● “他力本願”で人の力をうまく引き出す人。 ● 環境教育(ESD)に熱心な教諭、校長先生。 ● それぞれのステークホルダーの中にいる地域の人。例えば、地元出身の市役所職員。 ● どんな人(あらゆるステークホルダー)にも役割があり、必要な役割があることを認識している人。 ● ぐいぐい引っ張ってくれる人(勢い、ミッション明記)。 ● 冷静さん(ぶれない人)。

	<ul style="list-style-type: none"> ● お金に強い人（経理、会計）。 ● 全体プロデュース、プロジェクトマネジメントのできる人。 ● 若者への先導者。 ● 第3者（行政、地域の若者、地域の子ども、他分野の人）。 ● スタッフの子ども 場を和ませる人。 ● 先生。 ● スポンジのような人。 ● 反対の意見をもつ人（ブレーキ役）。 ● 言いにくいアドバイスもできる人（否定ではなく軌道修正）。 ● その道のプロ。専門家。 ● 電話帳になってくれる人。 ● 中長期を見られるペースメーカー。 ● 地域の顔役。 ● 仮想敵（ライバル）。 ● 聞き役。 ● 「伝説」をつくりたい人。 ● 文章が書ける人、思いを言葉にできる人。 ● 場づくりをできる人、引っ張る人、参加する人は必要。 ● 地域の接着剤になる人。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">私が協働取組で得たものは？</p>	<p>[考え方、認識、アプローチの変化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な考え方。 ● 妄想力 ● 忍耐 ● 手法(進め方)の違いの認識。 ● 自分の成長、意識変化。 ● 視野や可能性が広がり、単純にできることが増えた。 ● 表現の仕方や行動力。 ● 協働取組が簡単ではないということが分かった。 ● くじけない心が身に付いた。あと一踏ん張りという覚悟。 ● 考え方を共有する大切さを学んだ。 ● 柔軟な考え方が必要と認識した。 ● 自分の強みの発見。 ● 新しい研究テーマとフィールド→「支援する人が地域のニーズをしっかりと把握することが大切」という知見。 ● 新しい見方、思いもよらない発想。 ● 民のちからを市政に取り入れる。市民の活躍の場づくりの重要性。行政が地域に下りていくコミュニケーション。 <p>[多様な主体の認識、仲間意識の醸成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新しい仲間。 ● 知らぬ（今まで出会えなかった）方との出会い。 ● 団体、個人との公私含めたつながり。 ● 違う分野の普通は知り合わないような仲間。 ● 様々なフィールドにいる人たち。 ● 地域の課題に取り組む“熱い人”との出会い。 ● 人のつながり、絆の深まり。 ● いわゆる社会経験といくつかの信頼関係。 ● 知縁。 ● 新しい人とのつながり。この活動をしなければ出会えなかった人脈が多い。 ● 世代、業種、地域を越えた出会い。 ● 応援者。 ● 色々な方面からの想い。強い。 ● 人の思い(熱)と目的。 ● 役場が動いてくれたこと。 <p>[地域課題の発見、地域の価値の顕在化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティの現実。課題が見えた。 ● 定数評価のできない事業の価値に改めて気付いた。 ● 地域の良い点、悪い点が見えた。 ● 留学生から見た地元の新しい価値。 ● 地元(真駒内)の取り組みが分かった。関連するような事例に目を向けるようになった。 ● 「域内経済」の違いが浸透。 ● 生きた実践例が学べた。 <p>[多様な資源、機会の発見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 光る人が出てきたこと。 ● 予期せぬ人材の発掘。

	<ul style="list-style-type: none"> ● ボキャブラリー。 ● 地域の資源（自然環境）を発見した。 ● キラリと光る地域の宝（食・名所・自然など）。 <p>[ノウハウの構築]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 活動を広げるためのノウハウ。 ● 今までにない理論。 <p>[協働がもたらす可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 縁がない、関係がない、がっつながって、新たなものが生み出せることがわかったこと。 ● 不可能を可能にできる方法⇔決して“協働”が課題解決の最善手ではないこと。 ● 協働は新しいモノを生み出す力があるという気付き。 ● 異なる意見に可能性を感じる。 ● 次へのつながり。 ● 取り組みの広がりや深堀り。 ● たくさんの笑顔。 <p>[自身の喜びや自信]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人と人とのつながりでの喜びを知った。 ● できそうな自信が生まれた。 ● 私の人生の方向性。 ● 感謝の気持ち。 ● 視野の拡大と自信。 <p>[副収入]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 副収入。
私の協働取組失敗談は？	<p>[行政の巻き込み・行政とのコミュニケーションにおける失敗]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 協働取組の参画を依頼するとき、失敗と成功事例があった。特に、行政の巻き込み方に苦労した。 ● 行政に対する情報発信が困難だった。 ● 行政の立場を考えていなかった。 <p>[強引な誘導やかじ取り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ぐいぐい行き過ぎた。 ● 自分の考えを前面に出しすぎて上手にコミュニケーションが取れていなかった。 <p>[タイミングに配慮していない運営]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アドバイス、提案のタイミングが早いとき、遅いときがあった。 <p>[情報共有プラットフォーム、情報伝達プロセスの欠如]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 最初に全員が参加できるメッセージャーのようなものを作っておくべきだった。 ● 各団体のトップが協働したため、下のスタッフは何も知らなかった。 ● 「協働プロセス共有」についてメンバーが知っていると思い込んでいた。でもよく分かってなかったこと。 <p>[協働を公共化できなかったこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ものの開発にコーディネーターとして携わった時、発案者からお金を出す事業主が中心となるどころ、発案者は最後まで自分が事業の中心だと思っていた。 ● 地域住民や色々な人の巻き込みに「環境省」の看板をもっと有効に使ってもよかった。 ● 環境教育プログラムを学校現場でやってもらうことが、「ただ〇〇校にやってほしい」ことだった。 <p>[アプローチ、手続き、手順の間違い]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アプローチの手順を間違えた。教育委員会とか、分野・業界特有の「作法」があることを知った。 ● 組織内の関係者のつなぐ手段を間違えて、調整の時間がかかってしまった。 <p>[基本原則を提示できなかったこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 約束やみんなで決めたことが、守られない時のアドバイスが必要だった。 <p>[事実認識の誤り、早とちり、急ぎすぎた結論]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事実の認識が誤っていた。まず、基本的な情報を議論してから移行する必要があった。 ● 結論を急ぎすぎた。ぶっちゃけ発言をして議論が終了した。 <p>[関係者の巻き込みの失敗]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発言力の強い人へのアプローチ（毎回チャレンジ）を待てなかった。 ● 人がいなくなり、取組が出来なくなった。 ● 慎重になりすぎて相手の意見や主張を引き出せず疑問点が増えた。 ● 関係者との連絡調整のとき、八方美人になってしまい取組の軸がぶれた。 ● ツッコミが足りなかった。 ● 部分的な話が多すぎた。 ● もっとみんなを頼るべきだった。 ● やらなければいけないことを説明するときの脱強制感。 <p>[新たなアイデア、知見、視点の欠如]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトに新たな視点、領域を入れるときの丁寧さに欠けたこと。
	<p>[相互の利益・メリットの提示]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 相手の利益を優先する。 ● 相互メリットを提示する。 ● それぞれのメリットをみんな話して解決していく。

<p>本 当 は 人 に 教 え た く な い 協 働 取 組 を 成 功 に 導 く コ ツ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● メリットを示す。 [ストレス解消の仕組み] ● 取組の中のどこかでストレスを解消する仕組みを入れる。 [傾聴] ● とにかく関係者の話を聞く。 ● 利害関係者の不満(本音)を聞く。 ● 聞く耳を持つ。 [中立的立場の活用] ● コアメンバーの中で一人でも対外的に話しやすい人をつくる(中立的立場)。 [黒子としての役割遂行] ● 黒子に徹する。 [根回し、事前相談、事前調整] ● 関係者への事前のインプット。 ● 事前の根回し(調整)。 [明確な目標提示] ● 目指すゴールを最初に明確にすること。 [郷土愛] ● 郷土愛に訴える。 [インフォーマルな膝詰の対話の場] ● 酒の力。 ● 飲み会。 [共愉性] ● 「楽しさ」を第一に。急がない。欲張らない。 ● 楽しいコトを見つける。 ● みんなが好きなこと。 ● 各ステークホルダーの「やりたいこと」を引き出し実現できる場をつくる。 [ビジョンの共有] ● 「子どものために」というビジョン。 ● 思いを共有する仲間とできる範囲で実行。それが地域、行政、他団体を動かす。 [中間成果の共有] ● 中間成果の共有。 [多様な世代に対するレパトリー] ● 大人向け、子ども向けレパトリーを揃えること。 [若い人の巻き込み] ● 若い力の活用。 [女性の活躍] ● 女性(特にシニア)の力が大きい。 [食のステーキホルダー] ● 「食」のステーキホルダーがいること。 [プラス思考] ● よく思う。マイナスに思わない。 [受援力] ● 困ったと言いつける(受援力)。 [寛容さ] ● プレを許す寛容さ。 ● まとめない、どう活かすか。 [覚悟・責任をもつ] ● 責任をもつ。 ● 間違っていない(意味がある)という信念。 ● 無理しないこと。 ● 諦めない。 [そのほか] ● 無い。教えてほしい! ● とりあえずダメモトで会ってみる! ● 地元の人間関係に働きかける。
--	---